

認証評価結果に対する
改善報告書

認証評価結果に対する改善報告書

平成 29 年 7 月 14 日

1. 大学名：明治国際医療大学

2. 認証評価実施年度：平成 26 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○鍼灸学部鍼灸学科及び保健医療学部柔道整復学科の収容定員充足率が低く、改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1 について

18 歳人口の減少と鍼灸系・柔道整復系の養成施設の急増に伴い、鍼灸学部鍼灸学科及び保健医療学部柔道整復学科の入学定員が充足していない状況が続いており、健全な法人経営及び適切な教育研究活動を推進するため、平成 27（2015）年度から鍼灸学部鍼灸学科の入学定員を 80 人から 50 人に、保健医療学部柔道整復学科の入学定員を 60 人から 40 人に減員するとともに、保健医療学部柔道整復学科の 3 年次編入学定員 2 人を廃止した。

その結果、鍼灸学部鍼灸学科の収容定員充足率は【表 2-1-1】のとおり、認証評価を受けた平成 26 年度に 0.47 倍であったものが、平成 27 年度は 0.54 倍、平成 28 年度は 0.65 倍、平成 29 年度は 0.70 倍と推移しており、改善している。また、保健医療学部柔道整復学科の収容定員充足率は【表 2-1-2】のとおり、認証評価を受けた平成 26 年度に 0.52 倍であったものが、平成 27 年度は 0.62 倍、平成 28 年度は 0.73 倍、平成 29 年度は 0.84 倍と推移しており、こちらも改善している。なお、入学定員変更の学年進行が完了する平成 30（2018）年度には更に収容定員充足率の改善が見込める。【資料 2-1-01】

学生募集活動では、オープンキャンパスの強化に加え、平成 28（2016）年度から高校訪問担当者に高等学校の校長経験者を雇用し、近隣府県を重点拠点とした高校訪問の強化に努めている。また、平成 27（2015）年度から「スポーツ振興プロジェクト」を始動し、将来を見据えた医療資格の取得に加え、医療系大学ならではのサポート体制により、全国で活躍するトップアスリートの育成に取り組み、強化指定クラブ（陸上競技部・女子サッカー部・バレーボール部・女子剣道部・柔道部）の強化・活性化を進めている。この強化指定クラブの活躍が本学の知名度向上に繋がっている。

平成 29（2017）年度以降も収容定員充足率の更なる改善に向けて、学生募集活動の強化とスポーツ振興プロジェクトの充実を進めることで、入学者の確保に努めていく。【資料 2-1-02～2-1-04】

【表 2-1-1】鍼灸学部鍼灸学科の収容定員充足率の推移

年度	入学定員 〔人〕	収容定員 〔人〕	入学者数 〔人〕	在籍者数 〔人〕	収容定員充足率
平成 26 年度	80	360	30	170	0.47
平成 27 年度	50	310	36	168	0.54
平成 28 年度	50	260	48	169	0.65
平成 29 年度	50	230	43	161	0.70

※各年度の在籍者数は 5 月 1 日を基準日とする

【表 2-1-2】保健医療学部柔道整復学科の収容定員充足率の推移

年度	入学定員 〔人〕	収容定員 〔人〕	入学者数 〔人〕	在籍者数 〔人〕	収容定員充足率
平成 26 年度	60	244	19	128	0.52
平成 27 年度	40	222	41	138	0.62
平成 28 年度	40	200	42	146	0.73
平成 29 年度	40	180	41	151	0.84

※各年度の在籍者数は 5 月 1 日を基準日とする

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-1 の資料

- 2-1-01 学校基本調査 学部学生内訳票（平成 26 年度～平成 29 年度）
- 2-1-02 オープンキャンパスの実績（平成 24 年度～平成 28 年度）
- 2-1-03 高校訪問実績（平成 27 年度～平成 28 年度）
- 2-1-04 スポーツ振興プロジェクトのリーフレット（平成 29 年度）

認証評価結果に対する改善報告書

平成 29 年 7 月 14 日

1. 大学名：明治国際医療大学

2. 認証評価実施年度：平成 26 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2－8

○教養教育については「医学教育研究センター」所属の教員が対応しているものの、組織的な措置が講じられていないので、運営上の責任体制を含め、早急に構築するよう改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2－8 について

従来、医学教育研究センターは委員会組織で構成していたが、平成 27 (2015) 年度に他学部同様の教授会組織として「医学教育研究センター教授会議規程」を制定し、【資料 2-8-01】医学教育研究センター長のリーダーシップのもと定期的に会議を開催し、教学の理念に基づき「心豊かな医療人」を育成するため、学修支援体制の構築や入学前教育、初年次教育、教養教育、医学教育等について検討を行う体制を整備し、各学部の教育に反映させた。平成 28 (2016) 年度は、平成 29 (2017) 年度から開設される救急救命学科の教育課程の構築や看護学部の教育課程の変更の際にも、3つのポリシーに即した、初年次教育、教養教育について検討を進め、新教育課程構築に係る各種会議に反映した。【資料 2-8-02】

また、多様な学修環境のなか基礎学力の異なった学生が入学することから、昨年同様医学教育研究センター所属の教員を中心に各学科の教育目標に即した入学前教育を計画し、入学までに行う学修課題の選定、本学に来学しての勉強会を実施し、インターネットを利用した入学前学習とその確認を行い、学修情報を分析して入学後に各学部に情報を提供した。また、カリキュラムの決定とシラバスの作成に際しては学部からの意見を取り入れて基礎教養・医学基礎教養のシラバスの作成について議論し、学習能力に応じたカリキュラムを導入することを決めた。具体的には看護学科では高校までの振り返り教育として「基礎ゼミⅡ」という基礎医学教養科目を追加するとともに、学力不足の学生に医学基礎教養のさらなる理解の深化を目的として「解剖学Ⅲ」及び「生理学Ⅲ」を設置することに積極的に関与した。

今後は、鍼灸学科と柔道整復学科で新しく編成されるカリキュラムについても、編成担当者から医学教育研究センター教授会議で編成方針を確認し、3つのポリシーに即した初年次教育、教養教育を行うこととした。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-8 の資料

2-8-01 医学教育研究センター教授会議規程

2-8-02 医学教育研究センター教授会議事録（平成 27 年度～平成 28 年度）

平成 29 年 7 月 14 日

1. 大学名：明治国際医療大学

2. 認証評価実施年度：平成 26 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：3-6

○学生生徒等納付金など帰属収入の増収を図るとともに、更なる経費削減により毎年度の帰属収支を安定的に黒字化するよう一層の改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目 3-6 について

定員未充足であった鍼灸学部鍼灸学科及び保健医療学部柔道整復学科について、平成 27 (2015) 年度に定員 80 人から 50 人、60 人から 40 人へとそれぞれ減員させ、減員した定員 50 人を埋めるよう、平成 29 (2017) 年度に保健医療学部救急救命学科を開設した。なお、鍼灸学部鍼灸学科では、以前から専任教員数が過剰であったことから、教員組織の見直しを行い、平成 28 (2016) 年度当初 27 人であった専門分野教員を 13 人まで縮小させ、別途 7 人を嘱託再雇用としたことから人件費支出は【表 3-6-1】のとおり減少した。

また、平成 27 (2015) 年度には、身体のキユア・ケアを学ぶ各学科と、附属病院、附属鍼灸センター等の医療施設、広大な体育施設を活かした「スポーツ振興プロジェクト」を立ち上げ、スポーツスカラシップ生の獲得等の戦略的な学生募集活動を行った結果、平成 29 (2017) 年度では入学定員 200 人に対し 191 人（看護学科 67 人、救急救命学科 40 人、柔道整復学科 41 人、鍼灸学科 43 人）の入学生を確保することができた。この結果、平成 26 (2014) 年度に 581 人であった学部学生数は、平成 29 (2017) 年度に 630 人へと増加し、収容定員充足率も 87.5%（大学院除く）となり、学生生徒等納付金収入は【表 3-6-2】のとおり増加傾向を示している。【資料 3-6-01～3-6-03】

一方、法人の帰属収支等の現状を認識し経費節減等の危機意識を共有するため、現在では全教職員を対象とした決算報告会を開催している。その際、附属病院収支に関し本学の実状により則したものとするため、教員発令のある医師等人件費の半額は病院部門へ振替ることとしており、部門別の収支差額の推移は【表 3-6-3】のとおりである。【資料 3-6-03】

以上のとおり帰属収支を安定的に黒字化するよう努めた結果、大学の帰属収支差額については、平成 26 (2014) 年度に△334,760 千円であったが、平成 28 (2016) 年度には△155,138 千円へと回復した。しかしながら、救急救命学科の校舎改修費、消耗品費等の一時的な高額費用が発生したこともあり、法人全体では帰属収支差額の改善は見て取れないが、救急救命学科の年次進行及びスポーツスカラシップ生等の獲得に伴う学生数の増加が見込まれており、帰属収支は漸次回復傾向にある。

今後は、学生数の確保と人件費比率の改善を着実にを行い、更なる経費節減に取り組むと共に、附属病院の経営改善を最重要課題と位置づけ、法人全体で取り組むこととしている。

明治国際医療大学

【表 3-6-1】 人件費支出の推移 (単位 千円)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (予算)
明治国際医療大学 (H26 年度との比較)	1,311,116	1,192,715 (Δ118,401)	1,276,780 (Δ34,336)	1,094,600 (Δ216,516)
【内訳】 看護学部	440,708	560,340	495,927	455,316
保健医療学部	282,066	210,852	229,401	304,212
鍼灸学部	588,341	421,521	※ 551,452	335,072

※ 平成 28 年度鍼灸学部人件費には退職金支出 154,354 千円を含む。

【表 3-6-2】 学生生徒納付金収入の推移 (単位 千円)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (予算)
明治国際医療大学 (H26 年度との比較)	1,044,205	1,069,691 (25,486)	1,087,675 (43,470)	1,175,565 (131,360)
【内訳】 看護学部	470,770	479,326	492,290	476,565
保健医療学部	196,860	228,315	238,297	330,200
鍼灸学部	376,575	362,050	357,087	368,800

【表 3-6-3】 帰属収支差額の状況 (単位 千円)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
学校法人明治東洋医学院	Δ502,269	Δ562,196	Δ545,876
明治国際医療大学	Δ334,706	Δ305,672	Δ155,138
附属病院	Δ345,616	Δ226,191	Δ302,714
専門学校	103,088	Δ21,714	Δ39,144
法人本部	74,964	Δ8,617	Δ48,878

※ 医師等の教員人件費の半額を大学から病院へ振替えている。

5. エビデンス (根拠資料) 一覧

基準項目 3-6 の資料

- 3-6-01 平成 29 年度 学生定員・現員調査票 (大学)
- 3-6-02 平成 29 年度 予算書
- 3-6-03 財務計算に関する書類 (平成 26 年度～平成 28 年度)